

敬和創



上田市立第六中学校
学校だよりNo.13
令和7年3月19日



3年生を送る会「念ずれば花開く」～未来に向かって～

1年：先輩に一步近づくように！



2年：アンビグラム文字で感謝の気持ちを力強く表現



3年：圧巻の歌声を忘れない～響き渡る合唱曲 ♪♪「僕らまた」♪♪



2年役員ふりかえり：一步前進！



お世話になりました～令和6年度末転退職員（学年順 敬称略）

HPでは掲載を控えさせていただきます。

☆3学期終業式校長講話～「喜びながら、小さな成果を着実に」

48日間の三学期もいよいよ終わりを迎えました。

各学年の生徒代表の皆さんの発表がありましたが、全校の皆さんも、一人一人これまでの成果と課題があることでしょう。頑張った自分をほめ、できなかったことは来年度、必ずやり遂げられるように最後まであきらめずに臨みましょう。

さて、明日はいよいよ卒業式です。

「喜びながら、小さな成果を着実に」という話をします。

皆さんは、これまでの人生で、何回転んだことがありますか？10回ですか、30回ですか、50回ですか、100回ですか。皆さんは覚えていないと思いますが、アメリカ・ニューヨーク大学の研究者による計測では、1歳から1歳7カ月までの赤ちゃんが一日に転んだ平均回数は102回。そして、一日の平均歩数は1万4208歩。距離はのべ4,2キロにも及びました。大人でも1万歩を超える日はあまりないのに、1歳児が立っては転んでをくり返ししながら、1万4千歩も歩くのです。「赤ちゃん、あなどるべからず」ですね。なかには、1時間に69回も転倒した赤ちゃんもいたそうです。七転び八起きのだるまも顔負けです。

「赤ちゃんがこんなに歩くのは遊びたいからか」と考えた研究者は、遊び部屋での歩数と自宅での歩数を比べてみたそうです。しかし、どちらも変わらなかったという結果が出ました。つまり、**赤ちゃんは目標に向かって歩いているのではなく、歩けること自体が大きな喜びなのでしょう。**しかも、立ち上がるたび倒れずに歩ける距離を伸ばしていき、歩行の速度も上がっていったそうです。**まるで一歩ずつ自分が変わっていくことを楽しんでいるようです。**

転んでも、転んでも、立って歩くことをあきらめずに、何度も挑戦し、そうして、徐々に立てるようになり、そして、少しずつ歩けるようになり、そして、今皆さんが毎日あたり前にしているように、歩けるようになっているのです。これは、赤ちゃんだった皆さんの中に、**立って歩けるようになりたいという強い思い**があったことと、**何度上手いかなくても挑戦し続ける強い行動力**があったからできたことです。こんな素晴らしい、**こうなりたいと考える力と、そのために具体的に行動し、挑戦を続けるという力が皆さんの中にはある**のです。しかし、いつのまにか、「そんなの無理だよ」と始める前からあきらめたり、ちょっとやってみて上手いかなないと、「自分には無理だ」と、自分の可能性を否定してしまったりすることが増えていってはいないでしょうか。

皆さんは可能性の塊です。主体的に考え、主体的な行動で、どうか皆さんの可能性を大切に具体的な形にしていく新年度になるようにこの春休みの学習や生活を大事にしていきましょう。

以上で三学期終業式の話を終わります。

☆ 保護者の皆様へ ☆

部活動の大会やコンクール、ミニ運動会での温かいご声援、PTA活動への熱心なご協力、そして日々の送り迎えや持ち物の準備など、お子様の中学校生活に際し保護者の皆様には数えきれないほどのご支援をいただきました。皆様の温かい励ましがお子様ばかりではなく第六中学校の大きな力となりました。この1年間、皆様と共に生徒たちの成長を見守ることができたことを、大変嬉しく思います。1年間ありがとうございました。

